

授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	国語	科目名	現代の国語
学年(コース)	第1学年（普通・夢トライ）		単位数 2
使用教科書	高等学校 現代の国語		出版社 数研出版
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 ・言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯に渡って読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 		
評価の観点	項目	趣 旨	評価方法
	知識	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の特徴や使い方について理解を深め、適切に使うことができる。 ・文章に含まれる情報の扱い方について理解を深め、適切に使うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動状況 ・授業ファイル ・小テスト ・定期考査 ・課題
	技能	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題
	思考判断表現	<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」について、話題の設定、情報の収集、内容・構成の検討、考えの形成、表現・解釈、意見の共有、話し合い活動を適切に行うことができる。 ・「書くこと」について、題材の設定、情報の収集、内容・構成の検討、考えの形成と記述、推敲や共有を適切に行うことができる。 ・「読むこと」について、文章の構造や内容の把握、精査・解釈、考えの形成・共有を適切に行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動状況 ・授業ファイル ・定期考査 ・課題
	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉が持つ価値への認識を深めようとする。 ・読書に親しみ、自己を向上させようとする。 ・我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動状況 ・授業ファイル ・課題
授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> ・指示をよく聞き、主体的に「読む」、「書く」、「話す・聞く」。 ・不明な箇所や疑問点は、積極的に質問する。 ・授業ファイルを管理する。空欄やプリントの紛失がないように気をつける。 ・課題や小テストに計画的に取り組む。提出期限を必ず守る。 ・定期考査に向けて学習を行う。 			

年間授業計画

区 分	単元・題材など	授業時数	
前期	第1回 文章トレーニング1（文章構造を理解する） ・「論理的ということ」（野矢茂樹） 文章トレーニング2（要約する） ・「水の東西」（山崎正和）	予定	15~17
	第2回 文章トレーニング3（比較する） ・『『大人になる』ための条件』（石井洋二郎） ・「いま平和とは」（最上敏樹） ・「コインは円形か」（佐藤信夫）	予定	14
後期	第3回 文章トレーニング4（論証する） ・「政治的思考」（杉田敦） ・「他者を理解ということ」（鷺田清和）	予定	8
	第4回 ・「時間と自由の関係について」（内山節） ・「時を編む人間」（田口茂） 文章トレーニング5（意見文を書く）	予定	12~13
備考			

授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	国語科		科目名	言語文化	
学年(コース)	第 1 学年 (普通・夢トライ)		単位数	2	
使用教科書	新編 言語文化		出版社	東京書籍	
目 標	<ul style="list-style-type: none"> 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 				
評 価 の 観 点	項 目	趣 旨		評価方法	
	知 識	・生涯にわたり社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。		・小テスト ・定期考査 ・活動への取り組み ・授業ファイル	
	技 能				
	思 考 判 断 表 現	・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。		・活動への取り組み ・定期考査 ・授業ファイル	
	主体的に学習に取り組む態度	・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		・活動への取り組み ・授業ファイル	
授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス					
<ul style="list-style-type: none"> 授業中及び教科連絡の際の指示をよく確認して、忘れ物をしない。 発問に対して主体的に考えたり、話し合ったり、書いたりする 間違いや失敗を恐れずに、書いたり、話したりする表現に積極的に取り組む。 課題に計画的に取り組む、提出期限を厳守する。 定期考査に向けての学習をしっかりと行う。 					

年間授業計画

区 分	単元・題材など		授業時数	
前 期	第 1 回	(現代文) ・「さくらさくら」(俵万智) ・「とんかつ」(三浦哲郎) (古文) ・「古文に親しむ」 ・「児のそら寝」(『宇治拾遺物語』)	予定	16
	第 2 回	(現代文) ・「羅生門」(芥川龍之介) (古文) ・「絵仏師良秀」(『宇治拾遺物語』)	予定	12
後 期	第 3 回	(現代文) ・「羅生門」(芥川龍之介) ・「雨漏りの音」(長嶋有) (古文) ・「奥山に、猫またといふものありて」(『徒然草』) (漢文) ・「訓読の基本」 ・「格言」 ・「再読文字」	予定	12
	第 4 回	(現代文) ・「夢十夜」(夏目漱石) (古文) ・「芥川」『伊勢物語』 (漢文) ・「守株」 ・「五十歩百歩」 ・「借虎威」	予定	16
備 考				

授業の概要及び年間指導計画 (シラバス)

教科名	地理歴史	科目名	歴史総合
学年(コース)	第1学年 (普通・夢トライコース)	単位数	2
使用教科書	歴史総合	出版社	実教出版
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けようとする。 ・近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代推移、比較、相互の関連や現在とのつながりに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについて自覚などを深める。 		
評 価 の 観 点	項目	趣 旨	評価方法
	知 識	・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	・行動観察 ・小テスト ・定期考査 ・レポート
	技 能	・近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したりしている。	・行動観察 ・小テスト ・定期考査 (資料読みとり) (論述問題) ・レポート
	主体的に 学習に 取り組む 態度	・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。	行動観察 小テスト レポート

授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス

- ・「歴史総合」は、18世紀から現在までの近現代史と呼ばれる、約300年間にわたる「世界とそのなかの日本」を学ぶ科目です。
- ・授業では、単に「答え」を追究するのではなく、過去に起きた出来事の因果関係を知ろうとする「問い」を各自がもって参加することが重要になります。そのためには、日々の生活で新聞やニュースを見て、自分なりに疑問点や意見を持つ習慣を身に付けることが重要です。

年間授業計画

区 分	単元・題材など	授業時数	
前 期	第1回 歴史の扉 第1編 近代化と私たち 近代化への問い 第1章 近代化への胎動 第2章 欧米の市民革命と「西洋の衝撃」	予定	15
	第2回 第3章 欧米諸国と日本の国民国家形成 第4章 帝国主義の時代	予定	14
後 期	第3回 第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第5章 第一次世界大戦と大衆社会 第6章 経済危機と第二次世界大戦	予定	8
	第4回 第3編 グローバル化と私たち 第7章 冷戦と脱植民地化 第8章 多極化する世界 第9章 グローバル化と現代世界	予定	13
備 考			

授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	公民	科目名	公共
学年(コース)	第1～3学年（普通・夢トライコース）	単位数	2
使用教科書	高等学校 公共 これからの社会について考える	出版社	数研出版
目 標	<ul style="list-style-type: none"> 現代の諸問題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要な情報を適切かつ効果的にまとめる技能を身に付ける。 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としてのあり方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。 		
	項目	趣 旨	評価方法
	知 識	<ul style="list-style-type: none"> 産業構造の変化と職業選択との関係や、雇用・労働問題について理解する。 市場経済のメカニズムや各種経済指標、金融の仕組み等を通して各種経済指標の動向を読み解いたり、経済状況に応じて適切な手段の提示方法について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 小テスト 課題の提出状況 定期考査
	技 能		
	思 考 判 断 表 現	<ul style="list-style-type: none"> 需給曲線を使った価格変動の条件や、GDPと豊かさの関連性を多面的・多角的に考察し、表現する。 経済のグローバル化と相互依存関係の関連性や現代社会の諸問題を多角的・多面的に考察し、その内容を発言や発表などによって表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 発問に対する答え 小テスト（資料読みとり） 定期考査
主体的に 学習に 取り組む 態度	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの日常生活が国際社会と不可分であることや、格差のある国際社会でその解決や克服方法などを学習上の課題とし、主体的に主題や問いを設け、考察、構想する。 	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 授業プリント 発問に対する答え 課題の提出状況 	

授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス

- ・「公共」は、わたしたちが自立した主体としてよりよい社会形成に参画するとともに、持続可能な社会づくりの主体になるために学ぶ科目です。
- ・授業では、単に答えを求めるだけでなく、経済に関する内容と関連付けながら主題学習として問いを追究しその解決に至ることが重要になります。そのためには、日々の生活で新聞やニュースを参考にしながら、自分なりの疑問や意見を持ち、それを他者と協働しながら育てていくことが大切になります。

年間授業計画

区 分	単元・題材など		授業時数	
前 期	第1回	第5章 経済活動を行う私たち 第1節 経済のしくみと産業の変化 第2節 市場経済のしくみと金融	予定	16
	第2回	第5章 経済活動を行う私たち 第3節 財政と社会保障 第4節 国際経済の動向と課題 2 戦後の国際経済体制	予定	12
後 期	第3回	第5章 経済活動を行う私たち 第4節 国際経済の動向と課題 3 グローバル化と現代の国際経済 ～5 南北問題とその課題 第1章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第1節 西洋近現代の思想	予定	11
	第4回	第1章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第2節 現代の諸課題と倫理	予定	10
備 考				

授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	数学		科目名	数学Ⅰ	
学年(コース)	第1学年（普通・夢トライコース）		単位数	3	
使用教科書	新 高校の数学Ⅰ		出版社	数研出版	
目標	各分野の数学的な考え方について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考える資質・能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
評価の観点	項目	趣 旨		評価方法	
	知識	・各分野において基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学的に表現、処理する方法や推論などの技能を身につけている。		・小テスト ・課題の取組状況 ・定期考査の成績	
	技能	・各分野において事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考える。各分野における数学的な見方や考え方を身につけ、表現する。		・課題の取組状況 ・定期考査の成績	
	主体的に学習に取り組む態度	・各分野に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用しようとする。粘り強く考え、数学的論拠に基づいて判断しようとする。		・行動観察 ・課題の取組状況	
授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス					
<ul style="list-style-type: none"> ・問題集に計画的に取り組むなど、復習を積極的に行うこと。 ・授業中は「聞く」「考える」「書く（解く、写す）」のメリハリをつけ、プリント・ファイルをきちんと整理すること。 ・演習問題には積極的に取り組むこと。 ・与えられた課題は提出期限を厳守すること。 ・定期考査などの受験後は、間違えたところを訂正し、理解を深めること。 					

年間授業計画

区 分	単元・題材など		授業時数	
前 期	第1回	第1章 数と式 第1節 数と式の計算 第2節 1次不等式	予定	23
	第2回	第2章 2次関数 第1節 2次関数のグラフ 第2節 2次関数の値の変化	予定	21
後 期	第3回	第3章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用	予定	11
	第4回	第4章 集合と命題 第5章 データの分析	予定	20
備 考				

授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	数学		科目名	数学 A	
学年(コース)	第1学年（普通コース・夢トライコース）		単位数	2	
使用教科書	最新 数学 A		出版社	数研出版	
目標	場合の数と確率、図形の性質について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考える資質・能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
評価の観点	項目	趣 旨		評価方法	
	知識	・各分野において基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学的に表現、処理する方法や推論などの技能を身につけている。		・小テスト ・課題の取組状況 ・定期考査の成績	
	技能	・各分野において事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考える。各分野における数学的な見方や考え方を身につけ、表現する。		・課題の取組状況 ・定期考査の成績	
	主体的に学習に取り組む態度	・各分野に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用しようとする。粘り強く考え、数学的論拠に基づいて判断しようとする。		・行動観察 ・課題の取組状況 ・振り返りシート	
授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス					
<ul style="list-style-type: none"> ・問題集に計画的に取り組むなど、復習を積極的に行うこと。 ・授業中は「聞く」「考える」「書く（解く、写す）」のメリハリをつけ、プリント・ファイルをきちんと整理すること。 ・演習問題には積極的に取り組むこと。 ・与えられた課題は提出期限を厳守すること。 ・定期考査などの受験後は、間違えたところを訂正し、理解を深めること。 					

年間授業計画

区 分	単元・題材など		授業時数	
前 期	第1回	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	予定	15
	第2回	第1章 場合の数と確率 第2節 確率	予定	14
後 期	第3回	第1章 場合の数と確率 第2節 確率 第2章 図形の性質 第1節 三角形の性質	予定	8
	第4回	第2章 図形の性質 第2節 円の性質 第3節 作図 第4節 空間図形 第3章 数学と人間の活動	予定	12
備 考				

授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	数学	科目名	ベーシック数学
学年(コース)	第1学年（普通・夢トライコース）		単位数 2
使用教科書	最新 数学A		出版社 数研出版
目標	小中学校の復習を丁寧に行い、基礎・基本的な内容を習得後、高校数学へのステップアップを目指す。		
授業内容・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・四則演算、小数・分数等の基本的な計算を習得する。 ・割合や速さの表し方、方程式の解法や面積の求め方を習得する。 ・マナトレで解けなかった問題を理解し、習得する。 ・場合の数と確率、図形の性質について、事象を数学的に考察する能力や、習得した知識、習熟した技能を的確に活用する能力の養成を行う。 		
評価方法	定期考査の成績を基に、授業態度や課題の提出状況とその取り組みを加味して総合的に評価する。		
評価の観点	項目	趣 旨	評価方法
	知識	・各分野において基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、数学的に処理する技能を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・活動状況 ・小テスト ・課題の取組状況 ・定期考査の成績
	技能		
	思考判断表現	・各分野における数学的な見方や考え方を身につけ、数学を活用して事象を論理的に考察する力や数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・適切に表現する力を身につけている。	<ul style="list-style-type: none"> ・活動状況 ・課題の取組状況 ・定期考査の成績
	主体的に学習に取り組む態度	・各分野において数学の良さを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、問題解決の過程を振り返って考察を深め、改善したりしようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・活動状況 ・課題の取組状況

授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス

- ・問題集に計画的に取り組むなど、復習を積極的に行うこと。
- ・授業中は「聞く」「考える」「書く（解く、写す）」のメリハリをつけ、プリント・ファイルをきちんと整理すること。
- ・演習問題には積極的に取り組むこと。
- ・与えられた課題は提出期限を厳守すること。
- ・定期考査などの受験後は、間違えたところを訂正し、理解を深めること。

授業計画

区 分	授業内容等		授業時数	
前 期	第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・四則計算の規則 ・小数の四則計算 ・分数の四則計算 ・マナトレの復習 	予定	17
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・正負の数の四則演算 ・累乗の計算 ・文字式の計算 ・式の展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・乗法公式 ・マナトレの復習 	予定
後 期	第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・因数分解 ・根号を含む式の計算 ・式の値 ・マナトレの復習 	予定	10
	第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・1次方程式 ・比例式 ・連立方程式 ・2次方程式、 	<ul style="list-style-type: none"> ・一次不等式 ・マナトレの復習 	予定
備 考				

授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	理科	科目名	科学と人間生活
学年(コース)	第1学年（普通・夢トライコース）		単位数 2
使用教科書	科学と人間生活		出版社 第一学習社
目 標	自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。		
	項目	趣 旨	評価方法
評 価 の 観 点	知 識	自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	小テスト 単元テスト 定期考査 課題
	技 能		
	思 考 判 断 表 現	自然の事物・現象を人間生活と関連付けて、問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	小テスト 単元テスト 定期考査 課題
	主体的に 学習に 取り組む 態度	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	課題の提出状況 ノートやプリントの作成状況 授業中の態度
授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業には積極的に参加し、自主的に探究、発言すること。 ・ 課題および提出物の期限を守ること。 ・ 観察や実験は、班で協力して安全に行うこと。 ・ 授業プリントはノートに貼って整理すること。 ・ 小テストは定期考査への取り組みとなるので、何度も学習すること。 			

年間授業計画

区 分	単元・題材など	授業時数	
前 期	第1回 序章 科学技術の発展 第1章 物質の科学 第1節 材料とその利用 第2節 衣料と食品	予定	15
	第2回 第II章 生命の科学 第1節 ヒトの生命現象 第2節 微生物とその利用	予定	14
後 期	第3回 第III章 熱や光の科学 第1節 熱の性質とその利用 第2節 光の性質とその利用	予定	8
	第4回 第IV章 地球や宇宙の科学 第1節 自然景観と自然災害 第2節 太陽と地球	予定	12
備 考			

授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	理科	科目名	理数探究基礎
学年(コース)	第1学年（普通コース）		単位数 2
使用教科書	理数探究基礎		出版社 第一学習社
目標	様々な事象に関わり、数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせるなどして働かせ、探究の過程を通して、課題を解決するために必要な資質・能力を育成することを目指す。		
評価の観点	項目	趣 旨	評価方法
	知識	対象とする事象について探究するために必要な知識及び技能を身に付けている。	授業への取り組み プリント
	技能		
	思考判断表現	多角的、複合的に事象を捉え、数学や理科などに関する課題を設定して探究し、課題を解決する力を身に付けている。	授業への取り組み プリント
主体的に学習に取り組む態度	様々な事象や課題に向き合い、粘り強く考え行動し、課題の解決や新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとしている。探究の過程を振り返って評価・改善しようとしている。	授業への取り組み プリント	
授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業には積極的に参加し、自主的に発言すること。 ・ 課題および提出物の期限を守ること。 ・ 授業プリントはノートに貼って整理すること。 ・ 毎回の授業の中で、具体的な振り返りを行い、探究すること。 			

年間授業計画

区 分	単元・題材など	授業時数	
前期	第1回 序 編 探究を始める前に 第1編 探究の流れ 第1章 テーマの設定 第2章 仮説を立てる 第3章 計画を立てる	予定	16
	第2回 第1編 探究の流れ 第4章 結果の分析 第5章 成果をまとめる 第6章 成果を発表する	予定	14
後期	第3回 第2編 探究に用いる技能と実践例 第1章 実験・観察・調査に関する基本操作 第2章 探究の実践例	予定	6
	第4回 第3編 探究に必要なその他の知識 第1章 統計学 第2章 インターネットでの情報収集 第3章 英語での発表	予定	16
備考			

授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	保健体育	科目名	体育
学年(コース)	第1学年（普通・夢トライコース）		単位数 2
使用教科書	現代高等保健体育		出版社 大修館書店
目標	運動の成功体験を通じて、運動の楽しさや喜びを深く味わい、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けさせ、自己や仲間の課題を発見し、その解決に向けて思考・判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える能力を育てる。		
	また、運動における競争や協働の経験を通して、公正・協力・自己の責任を果たす・参画する、一人一人の違いを認め大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって、運動に親しむ態度を育てる。		
評価の観点	項目	趣 旨	評価方法
	知識	・運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。	・競技の記録表 ・ルールテスト ・実技テスト ・活動の観察
	技能		
	思考判断表現	・生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・個人ノート ・班ノート ・競技の記録表 ・自己評価表
	主体的に学習に取り組む態度	・生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保しようとしている。	・授業の取り組み ・出席状況 ・忘れ物など ・個人ノート ・自己評価表 ・活動の観察
授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> ・各種目の楽しさや喜びを味わえるように主体的・積極的に活動し、お互いに協力し合いながら練習やゲームを行うこと。 ・健康安全に留意し、積極的に練習やゲームに取り組むこと。自己（チーム）の能力に応じて戦術や技術を設定し、課題解決のために効果的な方法を工夫して取り組むこと。 ・ねらいや計画、内容が密接に関連した班ノートを作成し、実践すること。 			

年間授業計画

区 分	単元・題材など	授業時数	
前期	第1回 体育理論 体づくり運動 武道・球技から選択 (バレーボール・バドミントン・ソフトボール・柔道)	予定	14
	第2回 武道・球技から選択 (バレーボール・バドミントン・ソフトボール・柔道) 陸上競技・ダンスから選択 (陸上競技：跳躍・投てき)	予定	8
後期	第3回 体育理論 球技 (バドミントン・バレーボール・卓球・ソフトボールから選択) 陸上競技（競走）	予定	12
	第4回 体づくり運動 体育理論 球技 (バスケットボール・サッカー・ラグビーから選択)	予定	14
備考			

授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	保健体育	科目名	保健	
学年(コース)	第 1 学年 (普通・夢トライコース)	単位数	1	
使用教科書	現代高等保健体育	出版社	大修館書店	
目 標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、技能を身に付けるとともに、健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を育てる。また生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある態度を育てる。			
	項目	趣 旨	評価方法	
評 価 の 観 点	知 識	・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	・定期考査 ・小テスト ・授業の取り組み ・保健ノート ・訂正ノート	
	技 能			
	思 考 判 断 表 現	・健康についての自他や社会の課題を発見し合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	・定期考査 ・授業の取り組み ・保健ノート ・訂正ノート	
	主体的に学習に取り組む態度	・生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。	・授業の取り組み ・保健ノート ・訂正ノート	
授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス				
<ul style="list-style-type: none"> ・予習復習を積極的に行い、保健ノートをきちんと整理すること。 ・小テスト等は真面目に取り組むこと。 ・課題には誠実な姿勢で取り組み、提出期限を厳守すること。 ・定期考査後は、必ず訂正ノートを作成し、提出すること。 				

年間授業計画

区 分	単元・題材など	授業時数	
前 期	第1回 1 単元 現代社会と健康 1 健康の考え方と成り立ち 2 私たちの健康のすがた 3 生活習慣病の予防と回復 4 がんの原因と予防 5 がんの治療と回復 6 運動と健康	予定	8
	第2回 7 食事と健康 8 休養・睡眠と健康 9 喫煙と健康 10 飲酒と健康 11 薬物乱用と健康 12 精神疾患の特徴 13 精神疾患の予防		
後 期	第3回 14 精神疾患からの回復 15 現代の感染症 16 感染症の予防 17 性感染症・エイズとその予防 18 健康に関する意志決定・行動選択 19 健康に関する環境づくり	予定	7
	第4回 2 単元 安全な社会生活 1 事故の現状と発生要因 2 安全な社会の形成 3 交通における安全 4 応急手当の意義とその基本 5 日常的な応急手当 6 心肺蘇生法		
備 考			

授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	芸術	科目名	音楽Ⅰ	
学年(コース)	第1学年（選択）		単位数	2
使用教科書	音楽Ⅰ Tutti+		出版社	教育出版
目標	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の幅広い活動を通して、生徒が個性を生かしながら思いや意図をもって表現したり味わって鑑賞したりする力を育成し、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。 音や音楽が醸し出すよさや美しさ等を感じ取り、そこに価値を見いだせる感性を養う。 音や音楽を知覚・感受して、思考・判断し表現する音楽活動の過程を通して、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。 文化的・歴史的背景など広い視野で音楽を捉えて、我が国及び諸外国の音楽文化への理解を深める。 			
	項目	趣 旨	評価方法	
評価 の 観 点	知識	<ul style="list-style-type: none"> 曲想や表現上の効果と構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり等を理解しており、創意工夫を生かした表現をするために必要な、表現形態の特徴を生かして歌唱したり演奏したりする技能等を身に付けている。 音楽を形づくっている要素等について、音楽における働きと関わらせて理解している。 創作においては、音階等の特徴を表したいイメージと関わらせて理解しており、創意工夫を生かした創作表現をするために必要な技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 実技評価 小テスト等 	
	技能	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。 【表】知識や技能を得たり生かしたりしながらイメージをもって表現を創意工夫している。 【鑑】知識を得たり生かしたりしながら曲に対する評価とその根拠等を考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 ワークシート等 	
	思考 判断 表現	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。 【表】知識や技能を得たり生かしたりしながらイメージをもって表現を創意工夫している。 【鑑】知識を得たり生かしたりしながら曲に対する評価とその根拠等を考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 ワークシート等 	
	主体的に 学習に 取り組む 態度	<ul style="list-style-type: none"> 題材に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価 授業態度等 	

授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス

- ・音楽の“よさ”は自ら見つけようとしましょう。
- ・遠慮せず積極的に発言や記入をしましょう。
- ・歌唱や演奏など表現活動に取り組む時は“意図”をもちましょう。
- ・他人の表現は決して笑わず、尊重しましょう。
- ・楽譜には積極的に“書き込み”をしましょう。

年間授業計画

区 分		単元・題材など	授業時数	
前 期	第1回	歌唱 日本の歌、海外の歌 器楽 リズムアンサンブル	予定	16
	第2回	歌唱 海外の歌、日本の歌 器楽 バンドアンサンブル	予定	10
後 期	第3回	歌唱 合唱、日本の歌 鑑賞 西洋音楽、日本の音楽	予定	14
	第4回	歌唱 合唱、日本の歌 器楽 バンドアンサンブル 創作 旋律づくり	予定	12
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して様々な日本の歌に取り組みます。 ・表記しているほか、読譜の練習などの基礎的な音楽理論や、歌唱の学習と関連した鑑賞の活動にも取り組みます。 			

授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	芸術	科目名	美術Ⅰ	
学年(コース)	第1学年（選択）		単位数	2
使用教科書	高校生の美術1		出版社	日本文教出版
目 標	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。 			
評 価 の 観 点	項 目	趣 旨	評価方法	
	知 識	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業作品 制作レポート 鑑賞レポート 	
	技 能	<ul style="list-style-type: none"> 意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。 		
	思 考 判 断 表 現	<ul style="list-style-type: none"> 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業作品 制作レポート 鑑賞レポート 	
	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 	
授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス				
<ul style="list-style-type: none"> 忘れ物に気をつけ、作品や鑑賞レポート等を遅れずに提出すること。 1時間1時間の授業を大切に、集中して取り組むこと。 指示するポイントをしっかりとふまえて取り組み、必要があれば積極的に質問や相談をすること。 鑑賞活動等においては、グループで積極的に意見交流し、学習を深めること。 				

年間授業計画

区 分	単元・題材など	授業時数		
前 期	第1回	<ul style="list-style-type: none"> 鉛筆による表現の基礎 鉛筆の削り方 練り消しゴムの使い方 立方体・円柱のデッサン 鉛筆による静物デッサン 鑑賞（トリックアート作品） 	予定	16
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> 鉛筆による静物デッサン 切り絵による表現 五島の魅力を表現する 鑑賞（石田徹也の作品） 	予定	10
後 期	第3回	<ul style="list-style-type: none"> 切り絵による表現 五島の魅力を表現する 鑑賞（岡本太郎の作品） 	予定	14
	第4回	<ul style="list-style-type: none"> ペン画によるイラストレーション 自分自身が大切にしている言葉を表現する 鑑賞（長崎の世界文化遺産） 	予定	12
備 考				

授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	英語	科目名	英語コミュニケーションⅠ
学年(コース)	第1学年（普通・夢トライコース）		単位数 3
使用教科書	All Aboard! English Communication Ⅰ		出版社 東京書籍
目 標	<p>日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、</p> <p>1. 必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。</p> <p>2. 必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。</p> <p>3. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。</p> <p>4. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。</p> <p>5. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。</p>		
	項目	趣 旨	評価方法
	知 識	<ul style="list-style-type: none"> 英文を正確に理解して、情報や根拠を見つけることができる。 学んだことを踏まえて、新たな課題を発見・解決しようとすることができる。 学習の仕方を振り返り、改善することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 パフォーマンステスト プリント等 小テスト 振り返りシート
	技 能	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向けて、他者と協働することができる。 場面や状況に応じて適切に対応することができる。 目的に応じて工夫をしながら伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 パフォーマンステスト 振り返りシート 観察
	思考 判 断 表 現	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向けて、他者と協働することができる。 場面や状況に応じて適切に対応することができる。 目的に応じて工夫をしながら伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 パフォーマンステスト 振り返りシート 観察
主体的に 学習に 取り組む 態度	<ul style="list-style-type: none"> 目標に向けて努力を継続させようとしている。 自己や社会の課題解決に自ら取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 パフォーマンステスト 振り返りシート 観察 	
授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> 授業中に自主的に発言するなど積極的に取り組むこと。 授業で用いるプリント類をきちんと整理し、文字は丁寧に記入すること。 課題に確実に取り組み、提出期限を守ること。 定期考査後は復習テスト等に真剣に取り組むこと。 単語テストや音読テストなどに向けて継続的に努力すること。 			

年間授業計画

区 分	単元・題材など	授業時数	
前 期	第1回 Warm-Up 1 アルファベット Warm-Up 2 教室で使う表現 Warm-Up 3 辞書の使い方/疑問詞 Pre-Lesson1 【be 動詞】 Pre-Lesson2 【一般動詞】※その他中学校の復習を含む Lesson 1 Breakfast around the World 【過去形】 英単語・熟語テスト (Value)	予定	21
	第2回 Lesson 2 Australia's Cute Quokkas 【進行形】 Lesson 3 A Train Driver in Sanriku 【助動詞】 英単語・熟語テスト (Value)	予定	13
後 期	第3回 Lesson 4 A Miracle Mirror 【to 不定詞】 Lesson 5 Learning from the Sea 【動名詞】 英単語・熟語テスト (Value)	予定	18
	第4回 Lesson 6 A Funny Picture from the Edo Period 【受け身】 Lesson 7 A Diary of Hope 【比較表現】 英単語・熟語テスト (Value)	予定	21
備 考			

授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	家庭	科目名	家庭基礎	
学年(コース)	第1学年（普通・夢トライコース）		単位数	2単位
使用教科書	家庭基礎 自立・共生・創造		出版社	東京書籍
目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。			
評価の観点	項目	趣 旨		評価方法
	知識	・人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけようとしている。		・授業プリント ・学習ノート ・授業、実習への参加状況 ・作品の出来栄 ・定期考査
	技能	・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて理論的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を身につけようとしている。		・授業プリント ・学習ノート ・実習などの活動への参加 ・定期考査
	主体的に学習に取り組む態度	・様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を身につけようとしている。		・授業プリント ・学習ノート ・授業、実習への参加 ・課題の提出
授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス				
<ul style="list-style-type: none"> ・提出物は必ず、期限までに確実に提出して下さい。 ・実習のときには、前の時間の授業が終わったら、実習室にすばやく移動し、遅れないように来て下さい。 ・調理実習のときには、エプロン、三角巾、タオルを忘れずに持って来て下さい。 ・衛生面、安全面に気をつけて実習を行って下さい。 				

年間授業計画

区 分	単元・題材など	授業時数	
前期	第1回 第1章 生涯を見通す 第2章 人生をつくる 第3章 子どもと共に育つ 《実習》 ・ライフプランを立てよう ・子どものお世話の仕方 ・おもちゃの制作	予定	15
	第2回 第9章 経済生活を営む 第10章 持続可能な生活を営む 《実習》 ・ホームプロジェクト実践 ・ライフプランシミュレーション ・外部講師による消費者教育	予定	14
後期	第3回 第7章 衣生活をつくる 第6章 食生活をつくる 《実習》 ・手縫いの基礎 ・布を使った作品作り ・日常食の調理 ・ミシンの使い方 ・洗剤の実験	予定	6
	第4回 第4章 超高齢社会を共に生きる 第5章 共に生き、共に支える 第8章 住生活をつくる 第11章 これからの生活を創造する 《実習》 ・高齢者の介助の方法 ・物件情報の読み取り ・防災教育	予定	12
備考	学習ノート		

授業の概要及び年間指導計画 (シラバス)

教科名	情報	科目名	情報 I
学年(コース)	第1学年 (普通・夢トライ)		単位数 2
使用教科書	情報 I Step Forward!		出版社 東京書籍
目標	<p>情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。</p>		
評価の観点	項目	趣 旨	評価方法
	知識	・効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、	・サブノート ・ファイル
	技能	技能を身につけているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。	・定期考査 ・授業態度
	思考判断表現	・事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	・サブノート ・ファイル ・定期考査 ・授業態度
	主体的に学習に取り組む態度	・情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。	・サブノート ・ファイル ・課題の提出状況 ・授業態度
授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> ・授業はしっかり顔を上げて聞き、内容を理解すること。 ・課題に積極的に取り組み、提出すること。 ・情報社会に出るにあたって、モラルとマナーを身につけること。 ・教材を必ず持参すること。 ・機器や椅子、机などの取扱いに十分注意すること。 			

年間授業計画

区 分	単元・題材など	授業時数	
前期	【1章】 情報社会 【2章】 情報デザイン	予定	14
	【3章】 プログラミング	予定	14
後期	【4章】 ネットワークの活用	予定	8
	【5章】 問題解決	予定	10
備考			